

# 大田区から日本社会に貢献 プラスチックの先端加工技術で これからの未来を創り出す

KDK

KDK（大田区大森西、佐藤武志社長、03・3763・9200）は、昭和44年創業のプラスチック樹脂専門の部品加工会社である。工作機械（5軸複合機、マシニングセンター、NC旋盤）を主力に、プラスチック樹脂の板材や丸棒から切削加工を行い、主に食品、印刷、医療、半導体などの製造装置に使用される部品を製作している。エンジンリアリングプラスチックの材質を維持するため工場内は空調管理され、三次元測定による品質管理を行っており、安定した製品を提供している。

佐藤社長は地域との共存のため環境の改善に力を注いでおり、「地域との共存、それは大きな意味では地球との共存と同義。全社員がその意識を持っているのが当社の誇りです」と語る言葉を象徴するのが、事務所と工場の空調管理である。冬場は工場から出る熱を事務所の暖房に利用するとともに、夏場は暑さをしのぐために工



場から熱を外に排出し、外気を取り入れたり、木を植え木陰をつくることで涼しく働ける環境を整えた。また、作業工程のなかで出た材料のリサイクルや無駄な電気の削減などにも日々努力している。

同社は地元の工業高校生のインターンシップや、小中学生の見学も積極的に受け入れていて。「教えるという行為は自信と誇りを生み出し、社員一人ひとりの技術を高めることにもなっています」と社長は説明する。平成24年には、大田区における、人に優しい（働きがいのある労働環境）、まちに優しい（周辺環境との調和）、経営や技術に優れた工場「優工場」に選出された実績もあり、製品だけでなく、働く環境の質の高さも窺うことができる。



「K(結構) D(出来る) K(会社)です」



見学の学生にも分かりやすく展示されている同社製品